

片手で使用できる髪留め具

片手で使用できる髪留め具

結髪動作は両手を使用するため、片手しか使えない方にとっては困難な動作です。そこで今回作ったのが、片手で髪を束ねることができる自助具です。特徴としては、通常の細めの髪ゴムを二重にした両端に、金属の芯を布で包んだくるみボタンを付け、そのボタンの片面にスナップボタン(凹と凸)、もう一方の面に母指と中指の先端を入れ込むポケットを取り付けています。ポケットに母指と中指を入れ、髪の束に沿って対立位を取り、スナップボタンを留めると髪を固定することができます。髪の量に対応し、ゴムの長さは調節が可能です。また、ポケットの外側には、使用者好みに合わせて刺繍やボンボンなどの飾りを取り付けることもできるようにしています。ただし、髪ゴムを取り替えることができないため、耐久性の面では問題が残っています。材料は全て100円均一のものを使用しています。



座談会会場

北九州市福祉事業団 福祉用具プラザ北九州

北九州市小倉北区馬借1-7-1 総合保健福祉センター1階



■開館／9時～17時30分(土・祝休) ■電話／093(522)8721

そうはいつても現場では時間に限りがあり、自分や職場内だけの知識だけでは解決できないのが現状です。

櫻木 私が勤める福祉用具、プラザにも、インターネットを通じて全国からオリジナルの自助具を作つてほしいとか、どこかに作ってくれる会社はないかといった相談が寄せられています。現場で働く作業療法士のみなさんの中には、情報を得ることが難しく悩んでいる方が多いのだと実感しています。

情報を集める必要性を痛感

談してほしいと思います。患者さんの状態に合わせるために工夫や技術など、貴重なアドバイスが得られますよ。

小林 今回の相談ことで、福祉用具についてまだ知らないことが多いなと、今回あらためて気付きました。自分の知識が足りないことで、患者さんが困っていることを見逃したり、その生活範囲を狭くしていることがあるかもしれません。そうなつては作業療法士として失格です。だから自分で解決しようと



櫻木美穂子さん
(福岡県アドバイザー)

社会福祉法人北九州市福祉事業団
福祉用具プラザ北九州勤務、作業療法士、生活支援コーディネーター、福岡県の代表アドバイザー。自作を含めて福祉用具の情報に詳しい。

田畠(担当アドバイザー) 最初に小林さんから相談を受けたとき、神奈川県作業療法士会のホームページに掲載していた片手で髪を結ぶオリジナル自助具「結び姫」を紹介しました。それはテーブルに固定して使う形のものですが、小林さんは、もつと小さくてシンプルな自助具が欲しかったのですよね?



小林志帆さん(相談者)
作業療法士。済生会神奈川県病院勤務。回復期の患者さんのリハビリテーションに携わり、自立支援をおこなう。

日本作業療法士協会が運営している福祉用具相談支援システムでは、相談者と同じ県に所属するベテラン作業療法士からオンライン上でアドバイスをもらうことができます。このシステムを活用し、対象者(患者さん)からのお問い合わせで髪留めをアドバイザーから助言をもらいました。対象者支援のポイントや、相談から解決までの経緯、同システム活用方法について語り合いました。

アドバイスで、考えがまとまる

田畠 僕には髪を結ぶことが感覚的にわからない部分もあったので、担当したアドバイザーが全国のアドバイザーに助言を求めることができるアドバイザー専用掲示板で全国のアドバイザーに問い合わせました。すると、スーパーバイザーの長尾先生から、過去の福祉機器コンテストの応募作品に同じ用途の作品があつたとの情報をいただきました。また、掲示板のやり取りをご覧になつた福岡県アドバイザーの櫻木先生が製作者をご存知だったのを紹介してもらい、作り方や使用法を教えてもらいました。

櫻木(福岡県アドバイザー) 製作は大阪のリハビリテーション大学の先生でした。しかし、小林さんの望みをかなえにはもうひと工夫が必要と感じたので、私からも2種類ほど試作品を作つて提案しました。

長尾(スーパーバイザー) コンテスト応募作品が小林さんのイメージに近かったので、私も改造点や修正点を考えアドバイスしました。



櫻木美穂子さん
(福岡県アドバイザー)

社会福祉法人北九州市福祉事業団
福祉用具プラザ北九州勤務、作業療法士、生活支援コーディネーター、福岡県の代表アドバイザー。自作を含めて福祉用具の情報に詳しい。

田畠 今日は、長尾先生の福祉機器コンテスト情報から、櫻木先生のネットワークを通じてコンテストの製作者に繋がりました。これまで、同じ県の担当アドバイザーと相談者がやり取りして解決することが多かつたのですが、今日は、福祉用具相談システムを最大限に活用し、県を越えて全国の作業療法士がつながり、情報交換できることがとても印象的でした。

田畠雄吉さん
(神奈川県担当アドバイザー)

作業療法士。神奈川県の代表アドバイザーとして、全国のアドバイザーと相談者の仲介役を務める。



田畠雄吉さん
(神奈川県担当アドバイザー)

作業療法士。神奈川県の代表アドバイザーとして、全国のアドバイザーと相談者の仲介役を務める。

小林 そこで、みなさんからの助言を参考にして、自分で改良を加えて作つてみました。アドバイスのおかげで次第に考えがまとまっていき、最終的に患者さんがイメージするものに近づけたと思いました。

小林 患者の退院までに解決したいという時間的な制約があったのですが、スピード的に解決できてよかったです。

櫻木 自助具は、利用者ごとに使い勝手やデザイン、サイズなど、こだわる部分が違うので、ぴったり合うものを探すのが大変です。今回のように、オリジナルな発想の自助具のヒントを提案することもあります。

長尾 オリジナルを作るにしても、身近にある材料で作れることがまず求められます。そのうえで、安全性も考慮しながら、相談しなければ、たぶんもっと時間がかかるかもしれません。

櫻木 そのため、専門的な知識や創造性も必要です。そのうえで、安全性能も考慮しなければいけないので、材料や加工法における専門的な知識や創造性も必要です。

田畠 そう考えると、作業療法士は福祉用具に関する幅広い知識を十分身に付けている必要があると思います。ただ、

としないで、患者さんにとつて最適な選択ができるよう、情報を集める必要性を感じました。

田畠 患者さんが困っていることを感じ取るアンテナを立て、情報収集していく必要性はますます求められるでしょう。そんななか、福祉用具相談支援システムはまだ十分に認知されていないよう思えます。もっと多くの作業療法士の方に知つていただき、利用してほしいですね。寄せられた相談が情報としてシステムに蓄積される利点もありますので、利用が増えればどんな相談に対してもより深くスピード的に対応できるのではないか。相談するOTの実名は事務局と担当アドバイザーしか分からぬシステムになつており、相談者の情報やプライバシーは守ることができます。簡単な



長尾哲男さん
(システム・スーパーバイザー)

西九州大学リハビリテーション学部教授。福祉用具相談システムスーパーバイザー。日本の作業療法士創世期から携わっており、総合的な視野に立ってアドバイスしている。

登録だけで、相談できる心強い味方ができますよ。

長尾 患者の生活を支援するのがわれわれ作業療法士の役割です。なで、支援する方法に悩んだ時、相談できるネットワークを持つておくことは必要です。そのための窓口として、福祉用具相談支援システムをどんどん活用して欲しいですね。

特別座談会

Special Symposium